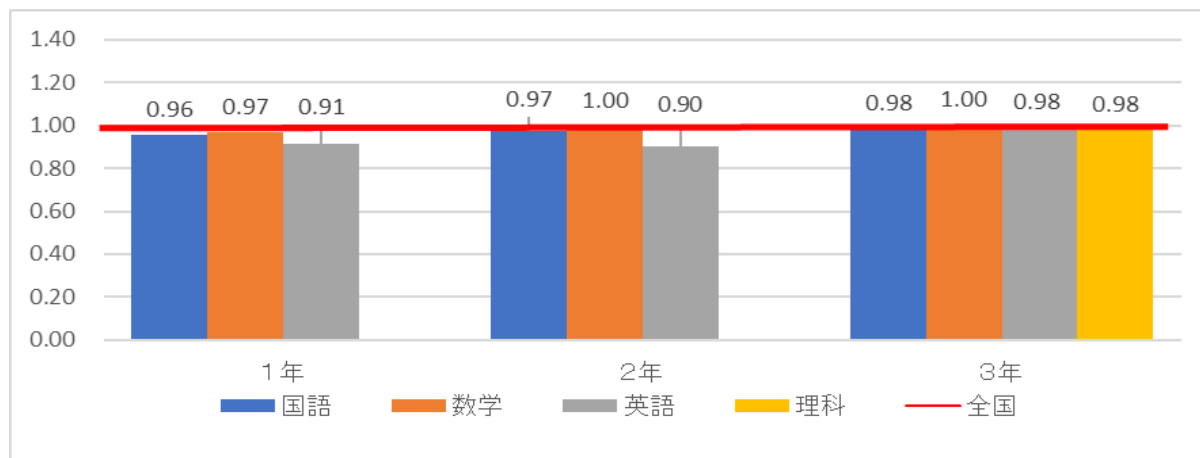


令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第二中学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※中学1・2年生（国・数・英）及び中学3年生（英）は、寝屋川市学習到達度調査
中学3年生（国・数・理）は、全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習到達度調査	国語	「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国平均を上回ったが、1年生は「書くこと」で、2年生は「我が国の言語文化に関する事項」領域で課題が見られた。また、1,2年生とも「知識・理解」で全国平均を上回るも、「思考・判断・表現」に課題が見られたので、「書く」学習活動を意識的に取り入れ、教材や授業実践の共有化を進めていく。
	数学	2年生では「図形」領域、「関数」領域で全国平均を上回ったが、1年生は全領域で課題が見られた。また、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」ではほぼ全国平均と同等であった。基礎的な計算力は認められたため、それを土台に、データ活用問題への取組を強化していく。
	英語	全学年で「知識・技能」より「思考力・判断力・表現力」が課題である。これらのことから、毎授業で単語テストを実施し、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の課題をバランスよく配置し、基礎定着を図っていく。
全国学力・学習状況調査	国語	「話すこと・聞くこと」「読むこと」では全国平均を上回り、「書くこと」において課題が見られた。また、「思考力・判断力・表現力」において課題があり、文章で表現して解答することに苦手意識を持つ生徒がいることから、授業の振り返りを大切にし、自分の考えを表現する学習場面を意識的に取り組むよう進めていく。
	数学	「数と式」「関数」領域で全国平均を上回ったが、「図形」領域「データの活用」領域に課題がある。「知識・技能」は全国平均を上回ったが、「思考力・判断力・表現力」は課題がある。基礎・基本となる計算「数と式」の定着は認められたため、活用課題に取り組む学習場面を設定し、考える力の定着を図る。
	理科	「生命」「エネルギー」領域において全国平均を大きく上回り、「粒子」領域で課題が見られた。また、選択式の問題では全国平均を上回るが、記述式の問題で課題があり、科学的思考を表現することが浮き彫りとなった。今後は、振り返りをよりよいに記述させることで、科学的思考を表現する学習場面を設定していく。
	質問紙	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「学校の授業は楽しいですか」の項目で、肯定的回答が全国平均を上回った。「家庭学習時間は一日どれくらいか」の項目では「全く、ほとんどしない」の割合が全国平均の3倍以上と大きな課題である。小中一貫教育を推進していく中で、校区として家庭学習へ取り組む意識づけの取組を進めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

- ・校区3校の公開授業を実施し、「真心の授業」を実践するため教科指導の充実を図る。
- ・校区学力部会で各種学力テスト及び質問紙等の分析を行い、結果と課題を共有する。
- ・分析結果を利用した課題克服の手立てを共有し、主体的な学習者の育成をめざす。
- ・自己調整力の向上について3校で取組を交流し、実践を重ねていく。

【学校】

「真心の授業」を合言葉に、生徒と生徒、生徒と教員をつなぐ授業に取り組んでいる。全授業でICT機器を積極的に活用し、主体的で対話的な深い学びのある授業の実施に取り組んでいる。数学科において、2,3年生は習熟度別授業を実施、1年生は少人数教育支援人材や学力向上支援人材をTTとして支援する。英語科においては2年生及び3年生で習熟度別授業を実施する。